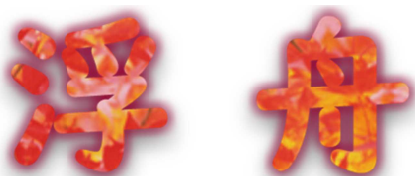




学校だより



u k i f u n e

令和5年12月22日(金)  
第35号

〒979-2157  
南相馬市小高区吉名字中坪1

TEL 0244-44-2023

## 第2学期終業式、お世話になりました ～校長式辞～

長かった2学期が今日で無事終了しようとしていることを大変嬉しく思います。皆さんやご家庭での適切な感染症対策などに心から感謝しています。

さて、2学期始業式の式辞で「全員が群青祭を楽しむ」ことを常に意識して、生活してほしいと伝えたことを覚えているでしょうか。さらに、そのための3つのキーワード、「自分からすること」「新たなアイデアを出すこと」「友だちの力を信じること」を提案しました。これら3つのキーワードを実践できた人が多かったことで、今年の群青祭がこれまでに勝るとも劣らない最高の文化祭となりました。この群青祭成功を促した3つのキーワードは、本校の教育目標である『自律』『創造』『協働』を具体的な行動例として挙げたものです。皆さんがこの教育目標を体感した群青祭であったのであれば、それは本校の目指す生徒像に近づいた瞬間と言えます。あの時味わった充実感や満足感、達成感をこれからも決して忘れないでほしいと思います。さらに加えると、群青祭成功の理由としてもう一つ陰ながら重要なポイントがあったことに気がついていただいでしょうか。それは、「自分から進んで」「新たなアイデアを出して」「生徒や先生方の力を信じる」小高中学校の全先生方の姿があったことです。群青祭で皆さんが見た先生方の映像や職員合唱など、誰かからの指示や誰かに強制されたわけではありません。担当として様々なアイデアを出してくれた〇〇先生、動画の企画・編集作業を自ら取り組んでくれた〇〇先生、合唱練習を支えてくれた〇〇先生、そして、それらを理解し、自主的に参加、協力してくれたすべての先生方の姿が、皆さんの活躍を後押ししていたと感じています。本校の先生方自身が身をもって『自律』『創造』『協働』の姿を見せてくれたことこそ、小高中学校の最大にして最強のパワーであり、本校教育目標に近づいたための最良の方法であると信じています。これからもさながら上から何かを教える学校ではなく、生徒も教師も共に学び、成長する学校であり続けたいと思います。そう感じさせてくれた今年の群青祭は本当に素晴らしいものでした。改めてここにいる皆さん全員を誇りに思うとともに、様々な場面で頑張ったこの2学期を振り返り、皆さん一人一人の努力を労いたいと思います。よくがんばりました。

他方、2023年の終わりを迎えるにあたり、もう一つどうしても触れなければならない話題があります。それはロシアによるウクライナへの軍事侵攻とイスラエルとパレスチナの戦争状態についてです。この世から戦争をなくすという願いが叶わなかったことは非常に残念でなりません。それぞれの国や民族がそれぞれの正義を振りかざし、その結果として多くの何の罪もないか弱き子どもたちやお年寄りの方々などが今もこうしている間に亡くなり続けています。私たちにできることがあるとすれば、それはたった一つのことだけです。「自分の命を大切にすること」です。自分の命を軽んずる者は相手の命の価値に気づくことなく平気で争いをしかけます。そして、争いは必ず破壊を生み、破壊は自己犠牲をもちとわれない新たな争いをもたらすのです。この負の連鎖を断ち切るためには、自分の命、相手の命を大切に思い、争いのない平和な世界を祈る人々でこの世界を満たしていくしか方法はありません。ですが、これには一つだけ大きな懸念があります。このところの戦争だけでなく、未知の新型感染症などの犠牲者数に関する報道により、失われた命の数をただの数字で表されることに慣れ、人の命に対する私たちの心が麻痺しているということです。犠牲者の数が1,000人を超えたから胸がより痛むとか、昨日から何人減ったから良かったといった感覚が一例です。この麻痺が残る限り、自分の命を本気で大切にしようとすることはできません。当たり前のことですが、犠牲者100人の100という数字は、100個のみかんやリングとはまったく別のものです。一つ一つの命が違った名前や顔、声を持ち、時に泣いたり、笑ったりして人生を歩んでいた別々の個人であり、100人や1,000人といった数字では決してまとめて言い表すことができない存在なのです。そして本来なら一つの命しか持たない私たちは一つの命が失われた悲しみしか、知ることはできないのです。にも拘わらず例えば100人の奪われた命の痛みや悲しみの程度を身勝手に推し量ることを繰り返すうちに、知らず知らず自分をまるで神様にでもなったかのように、人の命を数や量で判断するようになってしまっています。もし犠牲者100人の悲しみや胸の痛みを本当に知ろうとするならば、一人ずつその命の持ち主の人生と自分の命や人生を向き合わせ、常に一対一で捉えることしか、正しく受け止めることができないと考えます。そしてその一人一人の犠牲者と対峙しようとする人は、自分の命の真の価値を理解するばかりか、さらに自分の命の価値を、味わった痛みや悲しみの数だけ高めることができる人となります。自分の命の価値、つまり命の大切さをより高めることで、等しく他者の命の重さを知り、この世から争いをなくす第一歩へとつながるのです。また、戦争ばかりではありません。私たちの身近で自然災害などで亡くなられた多くの方たちの分まで、精一杯生きる宿命を東日本大震災を経験した私たちは一層追うべきものとも考えます。世界はまだまだ希望に溢れています。皆さん自身のため、そして争いのない世界をつくるため、自分の命そして自分の将来を必ず大切にしてください。何度も言う言葉ですが、皆さんは決して一人ではありません。

最後に、明日から始まる冬休みがこれまで同様、心と体、そして頭の休息と栄養補給につとめ、3学期に気持ちを新たにスタートできるよう期待して、式辞といたします。

